

水草研究会会報

No. 9 September 1982

水草研究会第4回全国集会報告

日時：昭和57年8月7日（土）

会場：倉敷文化センター（岡山県倉敷市）

白壁に夏の日射しが強い土曜日の午後、北は青森から南は鹿児島まで全国各地の会員が参集して第4回全国集会是盛大に開催された。参加者は会員45名と会員外9名の54名で研究会発足以来、初めて50名を越す集会となった。

話題提供は下記の方々の御協力を得て行われ、熱気のもった質疑応答が繰りひろげられた。

1. 関東地方東北部における水草の観察 I
……………野口 達也
2. 東南アジアの水草……………生嶋 功
3. 岡山県におけるホテイアオイの評価
……………沖 陽子

4. 環境変動に対する雑草の反応
—水生雑草を中心として—……………植木 邦和
5. アオウキクサ属の分類と2～3の新種について
……………別府 敏夫
6. 遺跡出土種実の同定と古代農耕について
……………笠原 安夫

なお、翌日は今回初めての試みとして、岡山県南部に自生する水草の紹介の為、マイクロバスをチャーターしてエキスカージョンを行った。参加者は29名で午前9時30分に倉敷駅を出発、日応寺、百間川、阿部池、金甲山を経て、午後4時40分岡山駅で解散した。解散後、岡山県下は雷雨警報が発令されたのである。暑いながらも両日、雨に降られず集会、エキスカージョン共に無事終了できたのは会員の皆様の精進の賜物と感謝する次第である。最後に、全国集会開催において、種々不備な点があったことを、紙上をお借りしてお詫び致すと共に、来年の集会がより盛大に開催されることを念じるものである。

エキスカージョンでみられた 主な水草

<日応寺>

ヒメタヌキモ、ジュンサイ、
ガマ、オモダカ、フトヒルム
シロ、ヒツジグサ、（湿地）
サギソウ、ホザキミミカキグ



サ、ムラサキミミカキグサ、サワギキョウ、チダケサシなどの花)

<百間川 (長利)>

クログワイ、キクモ、タヌキモ、サンショウモ、デンジソウ、コナギ、ウキアゼナ、オモダカ、マコモ、ウキクサ、アオウキクサ、ミズハコベ、ヒシ、トチカガミ、ヒルムシロ、クロモ、ヤナギモ、ササバモ、エビモ、マツモ、ハゴロモモ、イボクサ、キサシグサ

<百間川 (沖元)>……橋の上から……

オニバス、ヒシ、トチカガミ、マコモ、ヨシ、ガマ

<金甲山付近の溜池と沼>

ヒルムシロ、ガマ、ホソバミズヒキモ、クロモ、ヒメガマ、ミズユキノシタ

以上

総会審議事項

1. 水草研究会事務局を会長宅より京都大学農学部に移転することが承認された (20P 参照)。
2. 会長をはじめ役員は留任 (20P 参照)。
3. 次回の全国集会は関東地方 (千葉県、東京都、神奈川県などが主な候補地) で開催される予定。

4. 会費未納者には1年滞納の場合は勧告、2年以上は会報を配布しない方針が承認されたが条文化することは懸案事項となった。

昭和56年度会計報告

1. 収入 (昭56.1.1~12.31)

繰越金	21,445円
利息	1,112円
会費	408,000円
寄付金	225,000円
雑収入	13,000円
計	668,557円

2. 支出

会報印刷費 (No.3~No.6)	280,000円
会報送料	113,510円
新入会員その他の会報送料	33,600円
雑費	4,900円
計	432,010円
次年度繰越金	236,547円

<沖記>

第4回全国集会講演集録

東南アジアの水草

生嶋 功

(千葉大学理学部)

マレーシアのタセックベラ (Bera 湖) とインドネシアのラウペニン (Pening 湖) の水草とその環境を紹介した。この両者をことさらに話題として取り扱ったのは、それぞれが熱帯の淡水湖の特徴をもった二型であるためである。

ベラ湖は平地に発達した熱帯多雨林にかこまれた湿原の中にある。手の平のように入り込んだ湖岸線をもち、水面全体の見通しは全くきかない。湖は河川の上流にあって、分解速度を上まわる大量の陸上植物による生産物の一部は流水中に入り、腐植物のタンニンやリグニンが溶出して湖水は透明で紅茶色をしている。ブラック・ウォーターと呼ばれているものである。水温は年中 25 ~ 27℃、pH は約5の酸性、溶存酸素濃度は低く、透明度は1~2m、普通の年にみられる水位変動は約2mで、

湖は腐植栄養型である。ちなみに腐植栄養型の湖は、わが国では北海道や東北地方の高山湿原の湖沼に多くみられる。

調査をした水域の水路ぞいにはヒメヌマタコ *Pandanus helicopus* Kurz がふちどり、水深が浅く森林に被陰されない部分はアンペラソウ *Lepironia articulata* (Retz.) Domin. の抽水植物群落が広がる。沈水植物はタヌキモ属の *Utricularia flexuosa* Vahl. など7種類、浮葉植物はガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze を含めて2種類、抽水植物は12種類であった。これら水草の種類数は湖の周辺の陸上植物の種類数と比較して極めて乏しいものであった。ホテイアオイ *Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms は東南アジアのいたる地方の水域でみられるが、上述のブラック・ウォーターの水